

表紙：クラフト“お月見うさぎと赤とんぼ”

満月が夜空に浮かび上がると、うさぎさんたちがお月見の準備をしています。

色とりどりのうさぎさんたちが、お団子を囲んで楽しそうに集まっていますね。

空にはたくさんの赤とんぼが飛び回り、まるでお月見パーティーが開かれているかのようです。

満月と赤とんぼ、そしてうさぎさんたちが、夜空を美しく彩っていますね。

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakû

35

アイデアを お待ちしております！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の
最新ニュースやトピックなど皆さまに
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしております！

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2024年9月発行 Vol.35

次回 11 月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

☎ 530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com



★ネイティブ講師の保育士資格取得 ★卒園生保護者講演会

★Grad Club Summer Event 2024 ★Grad Club カンボジアボランティア研修

★インフィニティ初等部在校生インタビュー



日本の心と、英語の力。Kinder Kids inc.



保育士資格合格！

ネイティブ講師 インタビュー

< Part 2: Jennifer Eelbeck >

日本の保育士資格を取得することは、日本語を母語としない者にとっては大きな挑戦です。そんな厳しい試験に合格したキンダーキッズのネイティブ講師たちに、資格取得の動機や教育観などについて話を聞くインタビューを、前号に引き続きお届けします。



Jennifer Eelbeck

(豊中学校)

イギリス出身。大学で7歳から11歳の子どもたちを対象とした教育を専攻し、小学校教師の資格を取得。卒業後はイングランドで小学校教師として勤務。日本への移住後は最初に全国を旅して日本文化の理解を深め、小学生対象の英語講師に着任。自身の子どもが生まれたことをきっかけに、より若い年齢層の子どもたちへの教育に関心をもち、キンダーキッズでの勤務を開始。

護者の方々とのコミュニケーションにおいては、言葉の壁を感じることもありますが、その際には簡単な言葉や絵、ジェスチャーを使って、お互いの理解を深めるよう努めています。イギリスにいたときに独学で日本語を学び、日本に到着したときにはすでに流暢に話せるようになっていましたが、日本語を学ぶ最大の課題は、練習相手がいなかったことです。文法や発音を訂正してくれる人や会話の練習相手がいませんでしたし、スマートフォンもまだ持っていませんでした。日本に来てスムーズに会話できることがわかり、自分の勉強はうまくできていたのだと安堵しました。



【保育士資格取得の動機とエピソード】

キンダーキッズの先生としての役割をより良く果たすために、どんな資格が役立つかを調べている中で、保育士資格について知りました。試験の内容を見て、この資格が自分のキャリアにどれだけ役立つかが分かり、ぜひ取得したいと思いました。試験は暗記が多く、特に「栄養」の科目が難しく、合格するまでに3回挑戦しました。保育士資格取得の過程で特に印象に残っているのは、実技試験の言語表現です。台本なしで日本語で話すことにとっても緊張しましたが、自分の番が来るまで廊下で一生懸命に練習しました。入室時の挨拶やお辞儀のタイミングも分からず焦りましたが、他の受験者を観察して真似ることで何とか乗り切ることができました。

【日本で言語と文化の壁にどう対処していますか？】

日本の子育てに関する多くの資料を読み、日本の親がどのように子どもを育てているかを常に心に留めています。そうすることで保育環境を整える際の優先事項を考え、教室の環境をそれに合わせようと努めています。時には自分の価値観と異なる場合もありますが、同僚と話したり、他の視点を理解するために調査を行います。保

【教育方法について】

私は、教師が一方的に知識を伝える授業ではなく、子どもたちが主体となる授業を大切にしていますが、カリキュラムに沿って指導する必要があるため、子どもたちが自分で興味のある活動を選ぶようにしています。また、授業のテーマに沿って、子どもたちがさらに知りたいことを自由に調べる時間も設けています。イギリスでは、子どもたちは4歳で学校生活が始まり、この時期には遊びを通じて多くのことを学びます。そのため、活動は楽しく、子どもたちの発達に合わせたものになっています。一方で、日本では子どもたちのスケジュールがしっかりと組まれていて、グループでの活動が多いです。みんなで一緒に何かをすることで、お互いに助け合いながら学びます。イギリスと日本、どちらの方法にも良いところがあり、それぞれの国の保育者から学ぶべき大切なことがたくさんあります。

【子どもたちとの信頼関係の構築】

子どもたちとの関係を築く際には、私が彼らにとって最初の教師の一人であり、教師としての基準を示す役割を担っていることを常に意識しています。言語や文化の違いを理解しつつ、子どもたちが安心して話しかけられる存在であることを心掛けています。多くの子どもにとって、私との関わりが初めての外国文化体験となるため、母国の良いイメージを伝えたいと思っています。安全で前向きな教室環境を整えることで、子どもたちが異文化を恐れず、自信を持ってさまざまな背景を持つ人々とコミュニケーションできるよう支援しています。毎日、子どもたちと時間を共有する中で、彼らが自己肯定感を育みながら成長していく様子を実感しています。



【今後の目標】

キンダーキッズでクラス担任とオペレーションマネージャーを務めており、この仕事が大好きです。今後も続けていきたいと考えており、新しいスキルを学びながら、さらに仕事の幅を広げていきたいです。特に、カリキュラム開発に興味があり、将来的にはテーマカリキュラムの開発に携わりたいと思っています。また、発達に課題を抱える子どもたちへの理解を深めるため、専門の研修コースを受講する計画を立ており、最適なコースを調査中です。さらに、日本語の勉強も続けており、特に漢字に興味を持っています。現在は漢検準2級の取得を目指して勉強中です。

【海外で保育提供者として働くことを検討している方へ】

海外で保育士として働くことは多くの挑戦を伴いますが、それに見合う豊かな経験が得られます。保育現場で子どもたちと築く特別な絆や、互いに理解を深めて共に成長していく過程は、非常に価値のあるものです。そのためには、働く予定の国の言語や文化を学ぶことが非常に重要です。これは、新しい環境への適応をスムーズにし、コミュニケーションを円滑にすることに役立ちます。何よりも、新しいチャレンジを恐れずに積極的に挑戦してみてください。一歩を踏み出す勇気が、新しい発見と成長への道を切り開きます。





【R.M. くんプロフィール】



2015年
名古屋校卒園
現在は
名古屋国際高校の
IBクラス1年に在籍

Grad Club のスピーチコンテスト、
オーストラリア研修に参加
現在、名古屋校の Grad Club で
ボランティア参加中

キンダーキッズでは、保護者の皆様が**家庭での教育方針**
やお子様の将来の進路選択について、具体的なイメージ
を持ち、自信を持って取り組めるよう支援することを目的
に、保護者による講演会を実施しています。**卒園後の生徒の歩みや進路決定**において重視された点など、事前に
参加者から集めた質問に基づいて、率直な意見をお話し
いただいています。今回は名古屋ノリタケ校、名古屋校、
2日間の開催となりました。

※掲載文は、ご両親の発言を1つにまとめて編集したものです。

Q.キンダーキッズを選んだ理由

A.息子は幼い頃から音楽が好きで、音楽教室で英語の歌を歌うことから英語に触れ始めました。次第に英語をもっと学びたいという気持ちが芽生え、英語を日常的に使う環境のあるプリスクールに通わせることにしました。幼稚園選びの際、本人が「英語のある幼稚園に行きたい」と希望したため、英語教育に力を入れている幼稚園を探し始めました。普通の幼稚園や運動ができる幼稚園なども体験し、どの幼稚園にもそれぞれ良さがありましたが、キンダーキッズについて説明を聞けば聞くほど、実際に見学に行ってみれば見るほど、本当に素晴らしいシステムだと思いました。最終的にキンダーキッズを選んだのは、親しみやすいキャラクターを使いつつしっかりとしたカリキュラムがあり、覚えた単語を使った絵本を貸し出すなど学んだことを実際に使う機会が多く、子どもが楽しみながら学んだことを活かして、どんな英語が身に付いていく環境が整っていると感じたからです。

Q.キンダーキッズに通わせて良かったこと

A.特に印象的なのはライティング力の強さです。他の幼稚園や学校と比較してもキンダーキッズのライティング教育は断トツに優れていると感じます。具体的なステップを踏んで、しっかりとしたカリキュラムに基づいて学んでいくので、英検などの資格取得にも十分対応できる実力が自然と身につきました。カリキュラムに沿って学ぶことで確実に成果が出るところがキンダーキッズの強みだと思います。また宿題があることも大切で、学んだことが役に立つということを実感でき、自信にもつながるので学習のモチベーションが維持できました。



Q.卒園後の学校選びについて

A.K2の頃からパイロットになりたいという夢を持っていたため、IB(国際バカロレア)を取得できる学校に通わせたいと考えました。息子も英語と日本語が両方学べる学校が良いと言い、最初は関西のインターナショナルスクールも検討しましたが、家庭全体の生活のバランスを考え、愛知国際学園に通わせることにしました。しかし、愛知国際学園は新設校で生徒数が少なく、また多くのトラブルがあったため、改めて関西のインターナショナルスクールに移ることを決断しました。しかし実際通ってみると、生活費や学費が高く、金銭的にも、周りの環境的にも違和感を感じ、一方で英語に関しては思うような成果が得られなかったため、芦屋の公立小学校に転校しました。公立小学校での経験は多様な価値観や考え方に触れることができ、貴重な経験となったと思います。中学校への進学時、最初は立命館宇治を考えましたが、片道2時間もかかる通学が障壁でした。名古屋に戻ることも考え、名古屋国際学園に見学に行くと、IBクラスにパイロットを目指す先輩がいて、これが決め手となりました。

日本では高校卒業後すぐにパイロットの専門大学に入れるわけではなく、2年間別の場所で学ばないといけないという制約があります。日本の学校に入っても海外での訓練は必要になり、それなら最初から海外の学校で実践的な訓練を学んでも良いと思い、海外の学校を目指すことにしました。そのためにIBコースが第一の条件だったのです。

Q.英語力の維持・強化について

A.キンダーキッズ卒園後も英語力を維持するため、ニュージーランドからのホームステイ受け入れや関西学院大阪インターナショナルスクールのサタデークラス、フィリピンのオンラインチューターなどを活用しました。さらに、英語力を維持するために英検にも挑戦させ、K3で準2級、小学3年生で2級を取得しました。準1級への挑戦は早すぎかなとも思いつつ挑戦しましたが小学生には読解力が足りず、5回の不合格。最終的には中学3年生で取得しました。英検の問題には高度なトピックが含まれており、日常的に様々な話題に触れることが重要です。また、グラッドクラブのオーストラリア研修やスピーチコンテストに参加し、英語力を高めました。

Q.子育てを振り返って

A.正解のない子育てほど難しい仕事はないと思います。育児や家事は24時間ずっとあるので、外で働くより難しい一大事業です。しかも一定期間しかできません。生まれて十数年経ったら子どもは巣立って行きます。だから10年が勝負なんじゃないかなと思います。いろいろなことがありましたが、後悔は何もありません。ただ度重なる引越などで、長男以外はキンダーキッズに最後まで通わせてあげられなかったことは心残りです。もし全員がキンダーキッズを卒園できていたらどうだっただろう、可能性がもっと広がっていたかなと思うことはあります。

R君は、幼い頃から気圧の低い上空での業務に支障を来さないよう、虫歯予防にも継続的に注意を払っています。"IB取得"という明確な目標に向けての高校生活がスタートしました。R君が世界の空を翔けめぐる未来を楽しみにしています!



ニュージーランドからのホームステイ生と



Grad Clubのオーストラリア研修に参加



Grad Club
Creating bilingual young adults

2024

Summer

Events

初企画

関西

神戸シーサイドCamp

今年度、Gradで初めて神戸シーサイドキャンプを開催しました。GradClubでは、英語学習に加え、教室外のさまざまな活動を通じて、**問題解決能力**

自立心 **自己肯定感** の育成を目指しています。

今回のキャンプでは、自立心や他者への配慮を育むプログラムを多く取り入れました。プールアクティビティでは**安全意識**と**他者への配慮**を重視し、子どもたちが安心して楽しめる環境を整えました。また、ナイトサファリでは動物たちの夜の生態を学び、**共存の重要性**について考える機会を持ちました。朝食作りでは、火起こしや自分で調理した料理の味わいを通じて、達成感を得られました。キャンプを通じて、子どもたちは協力や共感の重要性を実感し、多くの学びと成長を経験しました。このキャンプはG1・G2限定で、家族が恋しいと感じる子どももいましたが、友人たちの温かい励ましで、全員が2日間のアクティビティを無事に完遂しました。キャンプ終了時、子どもたちの顔には晴れやかな表情があり、その成長が感じられました。この夏の経験を通じて、子どもたちは感動と共に、仲間たちとの絆を深めることができました。また一つ楽しい思い出が増えたことを喜んでいきます。

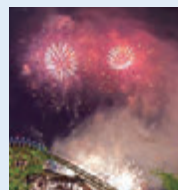
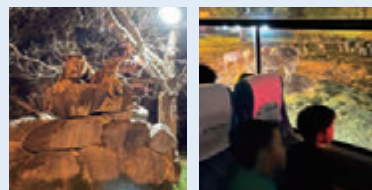
プールアクティビティ

「浮き輪を着用」「階段を使って入水」「潜らない」などのプールでの安全ルールを、子どもたちが一つ一つ互いに確認し合う姿はとても頼もしく見えました。特に泳ぎが得意な子に対しては、「大丈夫だよ、一緒にやろう!」と励ましの言葉を交わし、互いにサポートしながら活動する姿がとても印象的でした。



ナイトサファリ

ナイトサファリでは、暗闇の中でライオンが鋭い目を光らせ静かに歩く姿が印象的で、まるでこちらを見透かすように感じ、ドキドキしました。また、シマウマが夜の涼しい風に吹かれて駆け抜ける様子や、大きなキリンの姿からはアフリカの大地にいるかのような感覚を味わえました。動物たちの生き生きとした姿を間近で見ることで、本当にワクワクする体験となりました!体験の締めくくりには、打ち上げ花火を鑑賞し、夜空を彩る花火に子どもたちは大興奮で、その驚きと喜びが一層際立ちました。



関東

軽井沢 Summer Camp

関東

Small Worlds Museum & TOKYO GLOBAL GATEWAY



関西

名古屋

ハチ北 Camp



関西

Dolphin Camp



関西

Work Exploration (職業体験)



関西

DOUBLE DUTCH



関西

STEAM Event



福岡

太宰府天満宮 インタビュー





◆カンボジアボランティア研修が5年ぶりに復活

コロナ禍の影響で一時中断していたGrad Clubのカンボジアボランティア研修が、5年ぶりに再開されました。この研修は、参加する子どもたちが他文化や異なる生活環境に触れることで、普段当たり前だと感じている豊かな環境のありがたさや、真の幸せについて深く考える機会を提供するものです。キンダーキッズは、CSR（企業の社会的責任）の一環として、カンボジアでの支援活動を行っています。今回の研修旅行は、その活動の一環として、子どもたちがカンボジアを訪れ、現地の生活や医療、教育の現状に触れる貴重な機会となりました。こうした体験を通じて、世界の多様な現実と直面し、未来に向けた広い視野を育むことができると信じています。



アンコール小児病院を見学
カンボジアの歴史や医療についての講義を受講

◆現地病院視察

キンダーキッズ堺校に通う生徒の保護者でもある、フリーランス口腔外科医の岩田雅裕先生と奥様の宏美さんのご尽力によりカンボジアでの医療現場を目の当たりにする貴重な体験をさせていただきました。岩田先生は、国内での医師としての業務と並行して、年に数回カンボジアを訪れ、医療支援を行っています。現地病院では、内戦の影響が色濃く残っており、多くの子どもたちが医療を必要としている状況に胸を痛めました。見学後の岩田先生の講演会では、医師としての使命感や、人々のために何かしたいという熱い思いが強く伝わってきました。その言葉は、参加した子どもたちの心に深く響き、未来への希望とともに、何かを成し遂げたいという意欲を育んだに違いありません。

◆参加者の声◆

◆今まで漠然と医師になりたいと思っていた。しかし、医療現場の見学という貴重な体験を通じて、発展途上国の病院では人手が足りておらず、患者さんも多いことを実感し、自分もその力になりたいと思いました。岩田先生のように、皆から頼られる存在になりたいです! (R.M. G5 男)

◆岩田先生の講演では、世界の医療やその問題点、さらに人としてのあり方まで学べたことに本当に感謝しています。今回の研修に参加して、これからも現地の子どもたちとの活動を増やしたいと思いました。また、子どもたちへの炊き出しや村での奉仕活動なども行ってみたいと感じました。 (T.H. JHS3 男)



岩田雅裕先生ご家族

岩田 雅裕 (いわた まさひろ)

1960年 兵庫県生まれ。
岡山大学歯学部卒業後、個人経営の歯科医院で歯科医師として勤務後、口腔外科を学ぶため岡山大学病院口腔外科へ。1993年、33歳で広島市民病院の口腔外科部長に就任。1999年に友人の誘いで初めてカンボジアを訪れ、カンボジアで医療ボランティア活動を開始。2006年、岸和田徳洲会病院で口腔外科部長に就任、年間300件の手術を行う。2013年、より多くの患者を助けるためにフリーランス医師となる。カンボジアに加え、ラオス、ミャンマー、ブータンなどにも渡航。現在、年間20回以上渡航し、累計3000人以上の患者を無償で治療。現地での専門医療や子どもたちへの健康指導、生活物資の寄与も行う。



カンボジアの負の歴史を伝える、地雷博物館(左)とワットトゥメイ(右)

◆地雷博物館とワットトゥメイでの学び

カンボジアの内戦時に埋設された地雷やその影響について展示している「地雷博物館」と、ポル・ポト政権時代の虐殺を記憶するための施設、「ワットトゥメイ」を訪見。地雷博物館では地雷の恐怖を改めて知り、ワットトゥメイではカンボジアの悲しい歴史について学びました。一部には目を背けたくなるような展示もありましたが、参加者は現地の語

部に積極的に質問し、今後同じ悲劇を繰り返さないために一人一人が何をすべきか話し合いました。また、現在も世界で起こっている戦争についても議論し、平和について考える機会となりました。

◆Pavanasaraでのワークショップ参加

カンボジアの女性を雇用し、社会的自立を支援する団体Pavanasaraのワークショップに参加しました。創設者の中川裕聖子さんから、団体の立ち上げ経緯や苦労話を伺い、雇用の重要性やブランド維持の難しさなどを学びました。Pavanasaraでは、野生のウォーターヒヤシンスを使ってカゴバッグを作成しており、今回は私たちもキーホルダーを作成しました。現地の方々との交流を通じて、教科書では学べない世界の実情や課題を知る貴重な機会となりました。



ウォーターヒヤシンスを使って
キーホルダー作りに挑戦



Pavanasara創設者、
中川裕聖子さん(前列左から
二番目)と記念撮影

◆World Theater Projectでの映画上映

World Theater Projectの一環として、小学校に映画を届けるプロジェクトに参加しました。映画「パンダコパンダ」を含む2本を現地の子どもたちと鑑賞し、映画がもたらす新しい世界や創造力の広がりと共に体験しました。鑑賞後は、感想を共有し、日本についての質問会や将来の夢について話し合い、参加者たちは夢を持つことの大切さを改めて感じました。さらに、日本から持参したおもちゃで現地の子どもたちと一緒に遊び、言語の壁を超えた心温まる交流が生まれました。



多くの笑顔に包まれた映画上映会



日本から持参した折り紙で
一緒に紙ひこうき作り

担当者からのメッセージ



グッドクラブ
嶋田 早芳

「百聞は一見に如かず」という言葉通り、現地での学びや出会い、交流を通じて、私たちは本当の豊かさとは何か、日本や自分に足りないものは何かを深く考える貴重な経験を得ました。これからもキンダーキッズでは、子どもたちが他の国々や文化に目を向け、さらなる成長の機会を提供していきたいと考えています。



インフィニティ初等部在校生の挑戦と成長

インフィニティ国際学院初等部では、子どもたち一人ひとりが自らの目標に向かって挑戦を続けています。この記事では、学校生活で得た多くの学びや成長を、在校生と保護者のインタビューを通じてご紹介します。

原動力は学びを楽しむ力。算数オリンピックで金賞受賞!



I.M.くん (2年)

茨木彩都校卒園 (2023年)

楽しんでます。思い出に残っているのは、神戸シーサイド校への宿泊学習です。K3のときにも行きましたが、新しい友達と一緒に過ごした時間がとても楽しく、先生方との思い出も深く心に残っています。

英語力を維持するために心がけていること

本をたくさん読むことを心がけており、家でも妹と難しい単語を使って英語で会話するようにしています。また、両親に通訳や翻訳を頼まれることが多く、その際に英語と日本語を行き来することで自然と英語力が鍛えられていると感じています。

将来の夢・目標

以前は宇宙飛行士になりたいと思っていましたが、技術の進歩によって、将来は宇宙飛行士が必要なくなるかもしれないと思うようになりました。どんな時代の変化にも対応できるよう、今は幅広い知識や経験を積むことを目指しています。

ご両親に
お聞き
しました!

算数オリンピックへの挑戦とサポートについて

息子が算数に興味を持ち始めたのは、数字があらゆるものに関係していると気づいたことがきっかけです。勉強中に面白い問題を見つけると「この問題、おもしろい!」と言いながら家族に共有してくれ、私たちと一緒に問題を楽しむ時間が多くありました。難しい問題に挑戦し、楽しみながら結果を出したことが、息子にとって自信になってくれれば嬉しいです。

インフィニティ初等部での学びと成長について

インフィニティ初等部を選んだ理由は、英語だけでなく日本語や中国語も学べる多言語教育に魅力を感じたからです。息子は入学後、学校に備えられた本棚にアクセスしやすい環境の中で本への興味を深め、モーリス・ルブランや江戸川乱歩といった作家の作品に夢中になりました。また、フィボナッチ数列について発表した際には、自分でスライドを作成し、保護者の前で自信を持って発表する姿に感動しました。息子が自ら考え、発表する機会が多いことが、この学校での学びの大きな特徴だと感じています。



S.H.くん (4年)

豊中学校卒園 (2021年)

一番好きな授業は理科です。毎回異なる話題が取り上げられるため、新しいことを学ぶのがとても楽しみです。また友達と一緒にプロレスリングの劇をしたことは特に印象深い思い出で、優しい友達と過ごす時間は学校生活で最も大切だと感じています。将来は、人間と自然が平等に共存できる社会をつくりたいと思っています。

バドミントン全国大会を通して感じた成長

息子がバドミントンの全国大会に出場できたことは、日々の努力が実を結んだ大きな成果ですが、学校でも先生方が応援してくださるため、それが励みになっています。練習が夜遅くまで続くこともあり、家庭では睡眠時間の確保に工夫しています。全国大会で他県の強豪選手と対戦し、息子は自信を持つとともに、努力の重要性和世界の広がりを実感したようです。

インフィニティ初等部での学びとその影響

インフィニティ初等部での多様な学びを通じて、息子は海外に興味を持ち、英語力も大きく伸びました。アメリカ旅行では自信を持って英語を使い、自由な校風の中で自分の意見をしっかりと発表できるようになりました。リーダーシップを発揮する場面も増え、家庭でもその成長が感じられます。インフィニティは、学ぶ楽しさを実感できる環境だと感じています。

ご両親に
お聞き
しました!



A.S.さん (1年)

堺校卒園 (2024年)

電車が止まり、G2のお姉ちゃんお兄ちゃんと一緒に天王寺まで歩いて帰ったことです。将来は歌を歌いながら絵を描く人になりたいですが、インフィニティの先生もやってみたいです。

英語大好き! 旺盛な好奇心で日々楽しく学ぶ

大好きな英語を、楽しみながらレベルアップ

友達と英語で話すことが楽しいので、英語が大好きになりました。インフィニティ初等部に通いながら、英語力をキープするために、自分の好きな外国人のYouTubeをよく見ています。英語を使って、日常生活の中でも楽しみながら学び続けています。

楽しい学校生活と将来の夢

インフィニティ初等部の楽しそうな雰囲気に惹かれて入学しました。今はマンダリンの授業が好きで、シールがもらえるのが楽しみです。心に残っている思い出は、帰り道に

インフィニティ初等部を選んだ理由と成長の様子

体験授業に参加した時、英語の授業がとても楽しかったことが決め手になり、インフィニティを選びました。入学当初はひらがながほとんど読めなかった娘が、毎日の練習で成長し、2学期初めのテストで満点を取るまでになりました。英語も独自の学び方が楽しく、娘はやる気に満ちています。

家庭でも実感できる成長と変化

他の学校にはないカリキュラムを通じて、娘は「自分でやってみる」姿勢が身につきました。失敗しても大丈夫という考え方も、頼もしく感じています。また、親が子どもに教わることも多く、親の視野も広がっています。入学を検討されている方には、深く考えずにまずやってみることをおすすめします。子どもが楽しく学び、思っていた以上に成長している姿を実感できる学校です。

ご両親に
お聞き
しました!